

令和7年7月22日 発表

# 中小企業月次景況調査結果

## 令和7年6月分

～令和7年6月 データから見た業界の動き～

令和7年7月22日 発表

**製造業では売上高D.I値が大きく上昇  
非製造業を中心に人手不足に課題を抱える事業者が多数**



### 山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年7月22日 発表

## 製造業では売上高D.I値が大きく上昇 非製造業を中心に人手不足に課題を抱える事業者が多数

### ■ 概 況

6月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +4ポイント（前年同月比 6ポイント↑）

収益状況 ▲18ポイント（前年同月比 14ポイント↓）

景況感 ▲18ポイント（前年同月比 14ポイント↓）

となり、売上高は前年同月を上回ったが、収益状況・景況感は下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 +15ポイント（前年同月比 40ポイント↑）

収益状況 ▲20ポイント（前年同月比 15ポイント↓）

景況感 ▲25ポイント（前年同月比 10ポイント↓）となった。

「クリーンウッド法改正に伴う駆け込み需要で一時的に住宅着工率が上昇した（木材・木製品製造業）」「防衛機器関連の受注量が安定しており今後の見通しも明るい（電気機械器具製造業/郡内地域）」など一部の好調な業種が数値を押し上げ、売上高D.I値が大きく上昇した（+40ポイント）。

収益状況について、電気機械器具製造業（国中地域）からは「県外業者が積極的に原材料を売り込みに来ており仕入価格が低下傾向にあるため、自社の販売価格の値下げも検討できる状況である」との報告があったが、「資材価格の転嫁に進展がみられるが十分ではない（骨材・石工品等製造業）」「原材料や包材・光熱費等の高止まりで収益状況が改善しないため9月までに製品単価を値上げする（パン・菓子製造業）」など値上げを実施しても長引く物価高騰に価格転嫁が追い付かない業種が多く、製造業全体の収益状況D.I値は低下した（▲15ポイント）。

一方、非製造業では…

売上高 ▲3ポイント（前年同月比 16ポイント↓）

収益状況 ▲17ポイント（前年同月比 14ポイント↓）

景況感 ▲13ポイント（前年同月比 16ポイント↓）となった。

早い梅雨明けや自治体の消費活性化施策（大月市PayPayセール）によって宿泊業や小売業では人流・売上増加の好影響が窺えた。その一方で、「物価高によって生活必需品でないジュエリーは真っ先に消費が抑制される（ジュエリー製品卸売業）」「魚類価格が上昇しており買い控えが見られた（鮮魚小売業）」と消費活動の低迷を感じる事業者の報告が多く、非製造業全体の売上高・景況感D.I値が低下した（ともに▲16ポイント）。

建設業では、「材料価格や人件費の上昇により受注金額との調整が難しい（電気工事業）」「大型公共物件の不調や業界全体で仕事量が減少しており、少ないパイの奪い合いによる値崩れが発生している（鉄骨・鉄筋工事業）」など、適正金額での受注が困難な様子が窺えた。

またガソリンスタンドでは「イスラエルによるイラン攻撃の影響で原油価格・卸売価格が一時的に高騰、停戦合意後に下落した」と短期間の石油価格変動によって在庫調整や価格転嫁に苦慮している。

「インバウンド客増加に伴う外国人対応スタッフの増強が課題（宿泊業）」「ドライバー不足が課題（道路旅客運送業）」をなど、業種を問わず人手不足が深刻である。その中で「織物技術は短期間で習得できるものではなく人材定着が課題（織物業）」「資格保有者の高齢化のため若手技術者の確保・育成が必要（型枠大工工事業、電気工事業、管工事業）」と、技術修得が必要な業種では若手人材の確保・定着が課題となっている。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化していきます。お気軽にご相談ください。

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	受注予定であった大口の注文が7月にずれ込んだ影響で、前年同月と比べ売上は68.4%となった。
食料品 (パン・菓子製造業)	前年同月と比べ売上は125%となったが、原材料や包材・光熱費等の高止まりによって収益状況が改善しないため、9月までに製品単価の値上げを実施する。
食料品 (酒類製造業)	前年同月と比べ売上は僅かに増加したが、コスト増加分を販売価格に転嫁しきれず収益状況が悪化した。酒類離れが進み、販売数量も低迷している。
繊維・同製品 (織物)	繊維業従事者の高齢化と後継者不足が深刻である。また織物技術は短期間で習得できるものではないため、人材定着が大きな課題となっている。
繊維・同製品 (織物)	繊維業のみならず、関連業種（撚糸、染色、整理、整経など）の従事者の高齢化によって、今後、休業・廃業する事業者が増えることを懸念している。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は41%増加、景況感は61%好転した。クリーンウッド法改正に伴う駆け込み需要によって一時的には住宅着工率が上昇したが、改正後（4月以降）は低下している。今後も厳しい状況は続く予想である。
窯業・土石 (砂利)	閑散時期とはいえ工事が少なく、前年同月比で売上は▲15%、収益状況は▲10%となった。
窯業・土石 (山砕石)	前年同月と比べ売上は16%増加した。資材価格の転嫁に進展がみられるが、十分ではない。今後の公共事業等の発注増、それに伴う資材の需要増加に期待している。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	設備投資を行ったことで生産能力が向上、前年同月と比べ売上は5%増加した。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	業界全体で景気が低迷しており、前年同月と比べ景況感は▲30%となった。アメリカ関税や物価高騰の影響で今後の先行きが不透明である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	県外業者が積極的に原材料を売り込みに来ており、仕入れ価格も低下傾向にある。製品販売価格の値下げも検討できる状況であり、価格競争の激化が予測される。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ景況感は▲30%となった。半導体関連の受注量について、スポット受注があったものの好調とは言えない。 防衛機器関連は受注量が安定しており今後の見通しも明るい。

● 非製造業

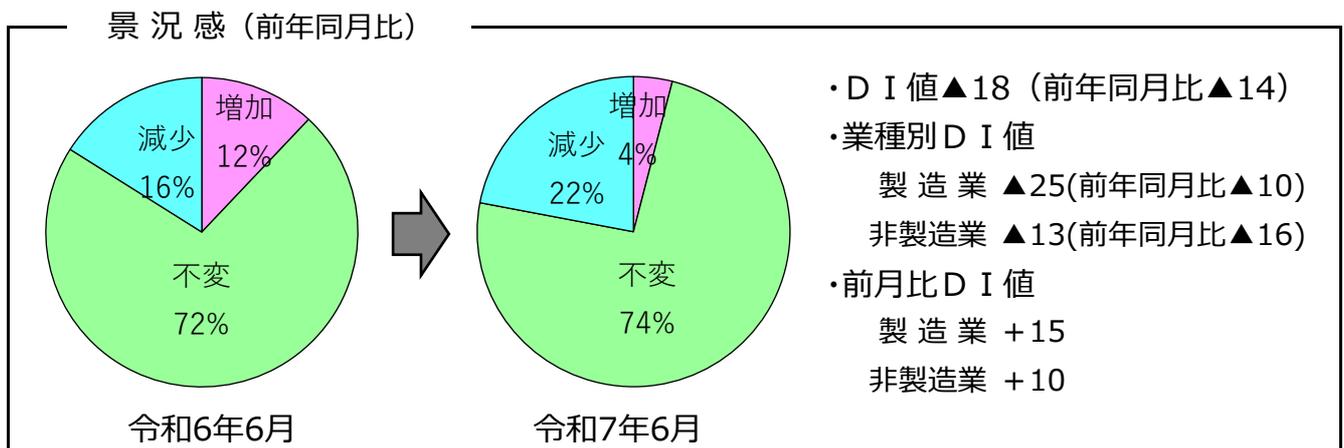
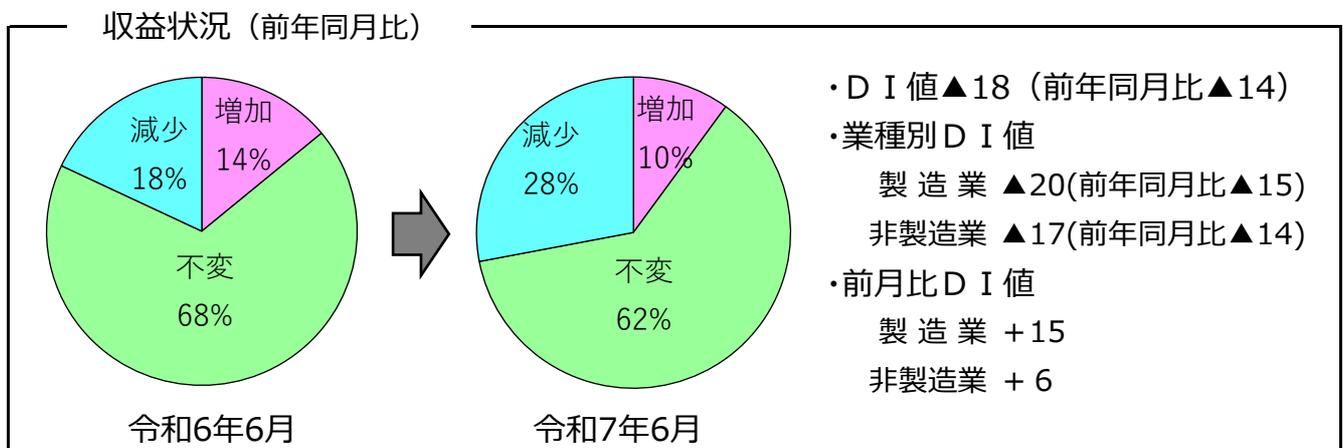
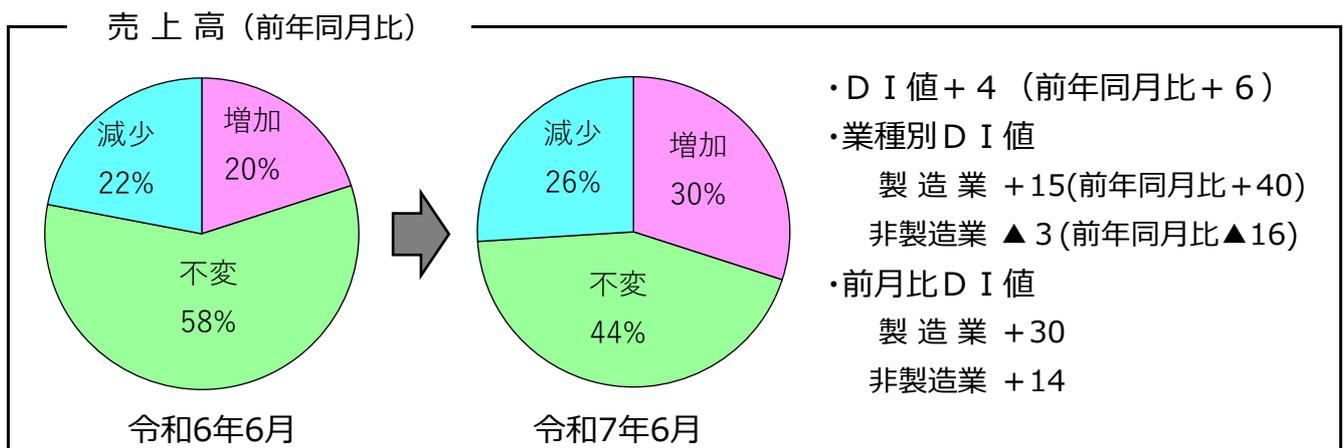
卸売 (ジュエリー)	地金の高騰によって製品単価が上昇していることに加えて、物価高の影響によって生活必需品でないジュエリー製品は真っ先に消費が抑制され、OEMを中心に受注量の減少が続いている。今年に入り製造量も減少し、売上・収益状況ともに悪化している。例年需要が多くなる年末も、今年度は需要減少が懸念される。
小売 (青果)	葉物類が値下がりした。桃・すももの入荷量が少なく、贈答用（お中元）のものは高温と水不足によって小粒傾向である。
小売 (水産物)	帝国データバンクの発表によると7月に2105品目の食品が値上げされる。当組合では組合員への共同購買事業を行っているが、先月に続き、値上げが予定されている商品（調味料・菓子・加工食品など）の駆け込み需要があった。 水産関係では前年同月と比べ売上は95%となり、魚類の価格が高いため買い控えが見られた。

小 売 (電気機械器具小売業)	商品の売れ行きについて、エアコンなどは堅調であったが（前年を40%ほど上回る状況）、白物家電は17%ほど下回り、全体では前年同月と比べ売上は▲3%、収益状況は▲5%となった。 東京都をはじめとする各県では省エネ設備の導入を支援する補助金があり、省エネ機器の売れ行きが堅調である。
小 売 (ガソリン)	イスラエル・イラン紛争の影響によって、一時的に原油価格が1バレル＝78ドルまで急騰し、卸売価格も1ℓあたり8円近く上昇した。停戦合意後は原油価格が下落し、卸売価格も徐々に低下しているものの、短期間に価格が上下したことで、現場のガソリンスタンドでは在庫調整、価格転嫁に苦慮している。
商店街	6月に行われた大月市のpaypay10%還元セールで一時的に需要が拡大し、前年同月と比べ売上は124%、収益状況は123%と好転した。 一方、大月駅周辺に有料駐車場が乱立している影響で組合が運営する駐車場の売上は減少、物価高騰により個店の売上も悪化している。
宿泊業	梅雨入りが例年より遅れ、降雨も少なく、雨天による観光客抑制が小さく安定した需要があり、売上も増加した。夏休みに向け人材確保（特にインバウンド客の増加に伴う外国人対応スタッフの増強）が課題となっている。
一般廃棄物処理	県内の一般廃棄物処理の広域化・集約化による影響によって、広域連携した市町村と広域処理センターとの間で事業系一般廃棄物に関する収集・運搬業者への指導方法（搬入に関する法の順守や資質の向上など）に一貫性のない点が見受けられる。広域処理センターを中心として各連携市町村は統一化を図る必要がある。
自動車整備業	車検台数について、普通車11,462台（昨年同月▲2,997台） 軽自動車14,462台（昨年同月+37台） ※集計の都合上、5月末数値  夏の高温下ではタイヤの空気圧が高くなり、不適切な圧力で走行するとタイヤが過熱してバーストする危険性が高まりますので注意が必要です。
建設業 (総合)	6月の県内公共工事は前年同月比で件数は2%、請負金額は0.3%それぞれ増加した。6月末累計では、件数は▲2%となったが、請負金額は5.1%増加した。
建設業 (型枠)	先月に引き続き、建築・土木関連の仕事が徐々に増加しているが、秋以降の見通しは良くない。今後、材料費や人件費の上昇、夏の猛暑によって業務効率が低下し経営を圧迫すると予想される。 職人の高齢化が進み、若手は技能実習生が大半を占めている。
建設業 (鉄構)	公共物件（特に大型物件）が不調で、前年同月と比べ売上・景況感ともに▲10%となった。業界全体で仕事量が減少傾向にあるため、少ないパイの奪い合いによる値崩れが発生している。来年まで回復は見込めず先行きが不透明である。
設備工事 (電気工事)	業界全体の受注量は僅かに増加しているが、材料価格や人件費が上昇しており、受注金額との調整が難しい。 また資格保有者が高齢化していることから、人材確保のため若者が興味を持てる業界となるよう取り組みが必要である。
設備工事 (管設備)	人材不足が課題である。企業活動の発展には特に若手技術者の確保が必要であるため、技術者育成のための研修会を企画・実施していく。
運輸 (バス)	ドライバー不足が課題である。
運輸 (トラック)	物価高・燃料高の影響で、前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲5%となった。夏に向けて飲料や青果物など季節的な輸送需要の増加が見込まれるほか、観光需要の高まりによって荷動きが活発になる予測である。

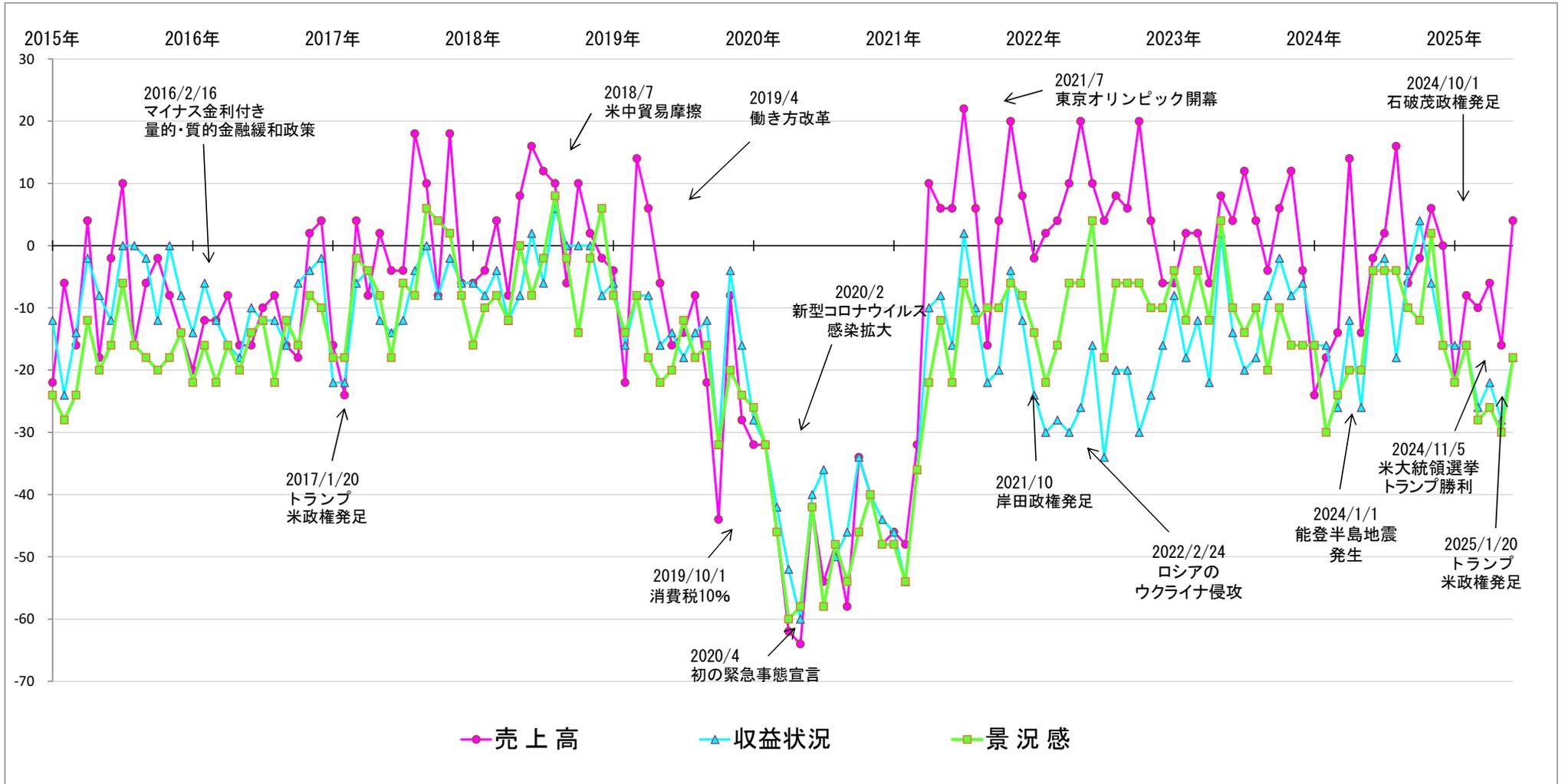
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2024年6月	2025年5月	2025年6月	2024年6月	2025年5月	2025年6月	2024年6月	2025年5月	2025年6月
売上高	▲ 25	▲ 15	15	13	▲ 17	▲ 3	▲ 2	▲ 16	4
収益状況	▲ 5	▲ 35	▲ 20	▲ 3	▲ 23	▲ 17	▲ 4	▲ 28	▲ 18
景況感	▲ 15	▲ 40	▲ 25	3	▲ 23	▲ 13	▲ 4	▲ 30	▲ 18

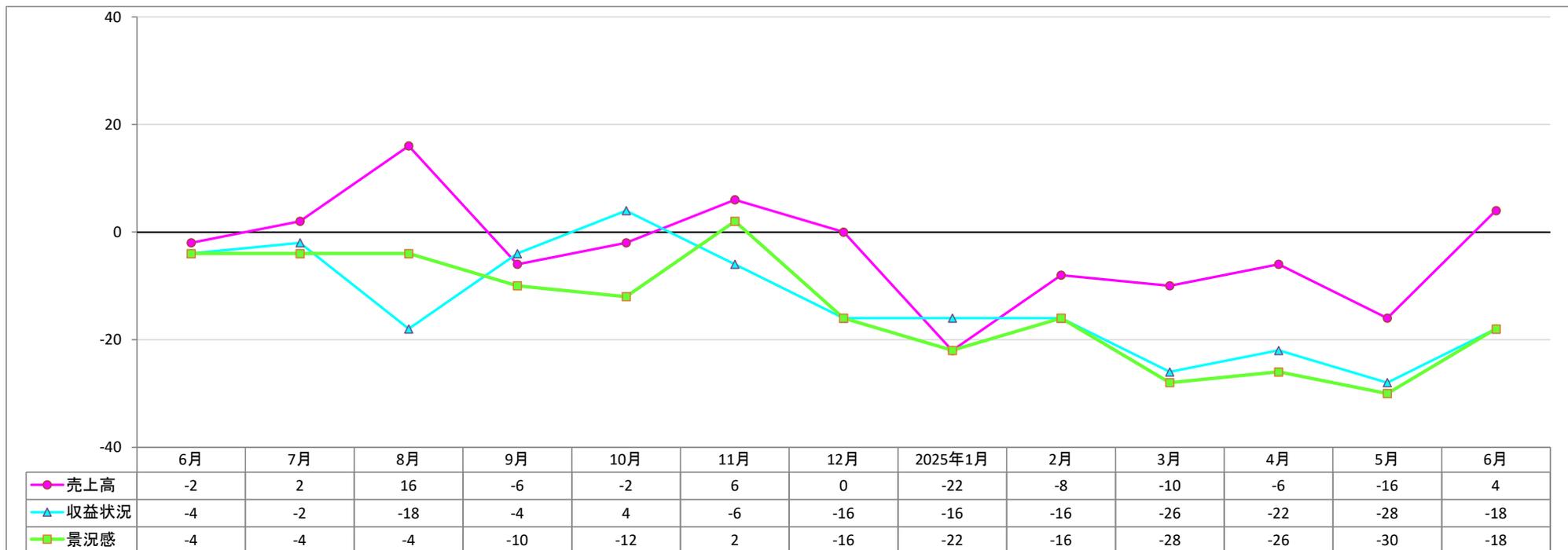
※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



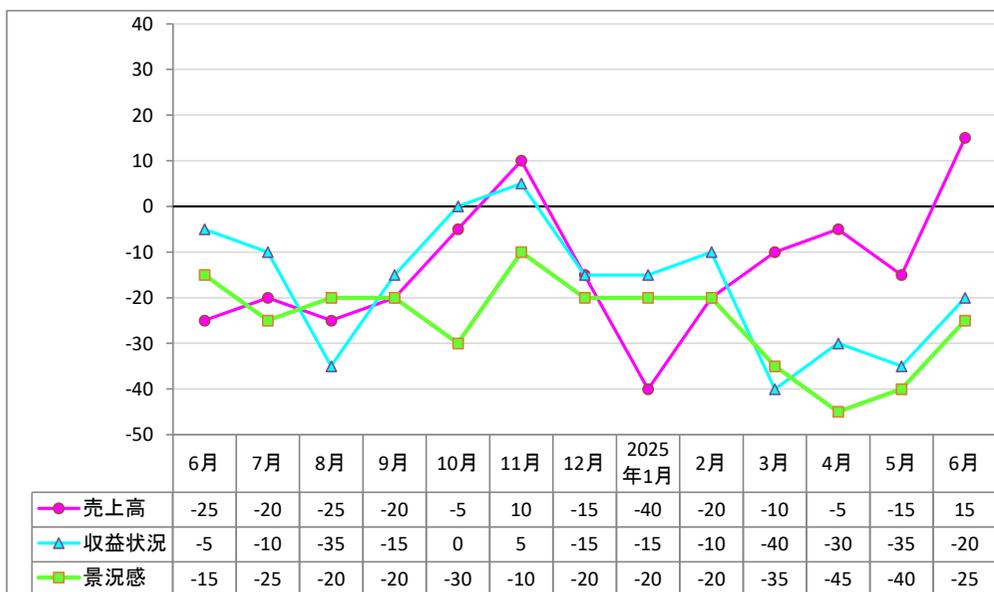
# D.I値の推移①(過去10年間) 2015年1月~2025年6月



# D.I値の推移②(過去1年間) 2024年6月～2025年6月



## 【製造業】



## 【非製造業】

